

Title	會員各位より"天界"の原稿を歓迎す
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1940), 20(229): 211-211
Issue Date	1940-04-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/167995
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

蓋のニコルソン博士に依り、新に二個發見された」と承知されながら九ツとしてある。これは無論11に訂正さるべきである。77頁—天王星は肉眼で見えないとあるが、時には肉眼でも見えることがある。78頁—衛星表中木星の衛星2個を追加すべきこと。82頁—「曆は最初、何處の國でも月の變化によつて作られたものであるとあるが例外が一つある、それはエヂプトである。91頁—南十字が「將來何十年かの後には再び見えることになる」歳差の關係で南十字が再び内地から見える時が来ることは明かであるが、何十年かの後には未だ見えない。94頁—皆既日食の時には「地上は暗夜の如くなる」とあるが、それ程暗くはない。94頁—皆既月食の時に「一時月は正體を失つてしまふ」とあるが、皆既月食の際は、銅色の月が朧ろに見えるものである。94頁—「月はこの地球の周りに廻轉してゐるもので、その一周轉は約二十九日半であり……」朔望月の二十九日半でなく、恒星月の約二十七日三分の一の方がよい。102頁—ハレイ彗星の「尾が40度にも達した」とあるが、筆者が曉東天に現はれた尾は天頂を越えて西天に及び140°にも達したのを見た。105頁—新しく發見された小遊星や新星には彗星發見者と同様發見者の名前が冠せらるとあるが、新發見の小遊星や新星全部とは行かない様だ。107頁—ハレイ彗星の尾20度に達するとあるが、最長の時は前記の様に100度以上であつた。120頁—明石町を明石市に訂正のこと。

11. 宇宙の實相 ウキルソン山天文臺 E. ハッブル原著、相田八之助譯の本書は1936年の秋、オックスフォードに於て、總題を「宇宙の實相」として試みられたロイデス記念講演である。本書は第一章觀測領域を宇宙の模型と見て、第二章赤色變位の意味に就いて、第三章可能なる宇宙の姿、觀測の結果に大別して述べてある。

12. 新裝版星座カード 初版に於て星圖と解説書とは別であつたものを、一葉に納めた爲め便利よく、定價を引下げられた事は普及上に喜ばしい事である。初學者は是非座右に備へるべきである。星座圖に日本内地の地平線があるのは目標があつてよい。

會員各位より“天界”の原稿を歓迎す

投稿規定は

1. ひだり横書きとすること。
2. 本誌1ページは、35字づめ、35行であるから、適當なる原稿用紙を用ゐ、なるべく編輯に便利なるやうに、書くこと。
3. 別刷を入用とする人は、あらかじめ其の部數を、編輯係に申し込むこと。但し、之れは、實費を本會會計へ申し受けます。
4. 原稿メ切は毎月末。
5. 本誌の編輯事務所は、京都市上京區平野宮北町52 山本方。